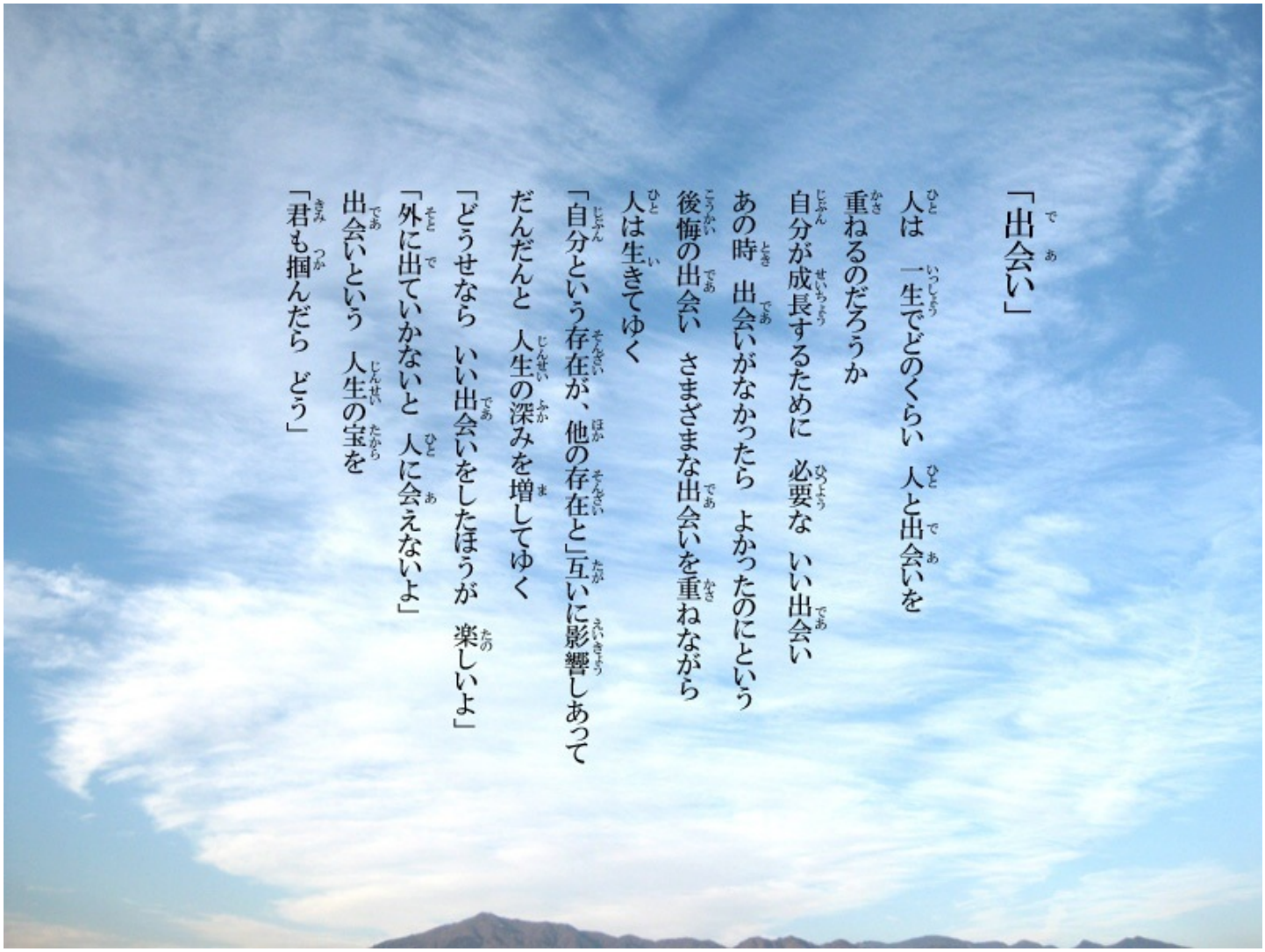
せいけん詩集

第三十一篇

作：近藤せいけん



「出会い」

人は　一生でどのくらい　人と出会いを
重ねるのだろうか
自分が成長するために　必要な　いい出会い
あの時　出会いがなかったら　よかったのにという
後悔の出会い　さまざまな出会いを重ねながら
人は生きてゆく
「自分という存在が、他の存在と」互いに影響しあって
だんだんと　人生の深みを増してゆく
「どうせなら　いい出会いをしたほうが　楽しいよ」
「外に出ていかないと　人に会えないよ」
出会いという　人生の宝を
「君も掴んだら　どう」